（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900716		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館こまち　1階		
所在地	土浦市藤沢894－1		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900716-00&PrefCd=08&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637－2
訪問調査日	平成28年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護度が重く、年齢が高齢の利用者様が生活されているので、スタッフ同士の声掛けや気付きを重点に置き対応する事を心懸けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

筑波山を仰ぎ見ることができ、桜の時期には花見ができる静かな環境の中、通学途中の中学生を見守りながら利用者の生活が営まれている。利用者の訴えに対し、一言一言返事をしている職員の姿に安心感を感じることができた。経験年数が浅い職員が多いとのことであったが、職員からは互いに話しやすい職場環境であると聞くことができた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・基本理念・決め事10則を掲げており、職員一人一人がこれらを念頭に置き行っている。	理念は入社時に資料を渡して説明をし、朝夕に唱和している。理念以外にユニット毎に目標を定めて各ユニットに掲示しており、職員は時々確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩時などに近所の方との挨拶ができている。地域の自治会に加入しており、地域の行事に声を掛けて頂いたり、夏祭りのイベントに地域の方の参加を頂いたりしている。	自治会に加入し自治会長が運営推進会議に出席、地域の情報等を知らせてくれる。傾聴ボランティアが月1回、介護相談員も毎月訪問し、利用者との交流を図っている。毎年隣の中学校から体験学習の生徒を受け入れている。	住宅に隣接しているが、地域の方と出会うことが少ないことなどを考慮して、認知症の勉強会を実施したり、避難訓練を運営推進会議時に実施するなどホームから地域の方への働きかけを強めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所隣の建物で行われているヘルパー2級講座に多数の方が受講され、認知症の人への理解や支援の方法を知る為の場として利用されており、実習の場としての受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている会議では、事業所からの報告と共に、参加メンバーからの質問・意見・要望などを受けて、サービス向上の参考にさせて頂いたり、地域交流の場ともさせて頂いている。	民生委員を兼ねた自治会長、社協の地区相談員、市の介護相談員が参加して定期的に行っている。自治会長は利用者とも顔なじみになっている。家族には声かけしているが参加がなく、報告はしていない。職員がテーマを選び、勉強会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員や認定調査での来館時、定期的な市役所への訪問時などに事業所の情報を伝えている。また、訪問時に気付いたことなどを相談したり、アドバイスを頂いている。	介護相談員の訪問があり、事務手続きに市役所に出向いて連携を図っている。生保受給者の利用もあり、担当者の定期訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月１回のミーティング時や研修などで身体拘束の対象となる具体的な行為を話し合ったり、代表者や職員を問わず、日常的に確認をしている。また、各ユニットにマニュアルも置き、実施している。	現在、身体拘束を行っている方はいない。職員に対する系統立てた研修は行っていないが、マニュアルを作成し、職員はいつでも見ることができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケース記録、申し送り、業務日誌などを活用して、細やかな対応を心懸けると共に、資料や研修を通じて虐待とは何かを自覚するように、話し合ったり取り組みを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所や病院などに設置してある資料から情報収集をしている。また、機会がある毎に職員には資料を配ったり、説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って、事業所のケアや取り組み、対応可能な範囲について説明をして、理解や納得を頂き同意を得ている。また、質問や疑問点にはいつでも問い合わせに応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には定期的に手紙を出し、来館時に何でも言って頂ける様な雰囲気作りをしたり、こちらから声掛けさせて頂いている。問題が起きた時には早期解決できるよう迅速な対応を心懸けている。	家族へは写真付きの手紙を隔月に送付し、医療や生活状況をお知らせしている。家族からは、面会等で意見を聞くようにしており、家族の要望等はきちんと受け止め、職員に内容を伝えている。利用者の「散歩に行きたい」などの要望にも応えられるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションを心懸け、必要に応じて個別に話しを聞く機会を設けている。ミーティング等でも意見交換している。	月1回、2ユニット合同でケアカンファレンスを行い、意見を聞いている。ホームの修繕については、年末にリストを作成して会社に提出している。職員同士は飲み会などの交流を図っており、管理者は職員に声かけをしたり、個別相談にも応じている。職員からも、上司にも話しやすい職場環境があると確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、意見などを聞く機会を設けており、代表者も定期的にミーティングに参加することで、より細かく意見を聞くように心懸けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを決め、定期的に社内研修を行っている。なるべく多くの外部研修の情報を入手し、受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流などに積極的に参加し、研修会などで意見交換したり、情報を得たりして、質の向上に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談によりご本人様の生活面等の把握に努め、職員は資料を基に関係作りに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居日にご家族様に希望等をゆっくり話し合える機会や時間を作り、一日も早く利用者様の事を理解できるように努めている。入居後も連絡を取り合いながら、安心して頂ける様な関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意見を尊重し、できる限り柔軟な対応を行っていく事で、より良い支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしを共に送る中で、自然の流れでともに園芸をしたり、食事の片付けを行ったりと支え合っている。外出をしたりする機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの行事の他にも、事業所のイベント(夏祭り・一泊旅行)のお誘いをお便りを通じてご家族様にお誘いしている。来館時にはご本人様とご家族様がゆっくりして頂ける様な環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染の友人や知人の家に遊びに行ったり、連絡を自由にできるようにしている。	家族や友人が面会に来ており、面会時には自室でゆっくり話ができるように配慮をしている。ホームで購読している新聞を読んだり、広告を見たりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流しやすいようにホール内にソファや、冬はコタツ等を設置し、好きな場所でそれぞれ過ごして頂ける様な環境作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他館に移動された方にも行事・イベントに参加して頂く関係を築いている。契約終了した後にも、いつでも連絡が取り合える状態になっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日ご利用者様と会話をし、行動・表情等を観察して情報を得ている。また、過去の記録やご家族様からの情報も参考にさせて頂いている。会話の難しい方は、ジェスチャー等から汲み取っている。	意思疎通が困難な方は現在いないが、表情などからも思いをくみ取るようにしている。個別の要望（外食や初詣など）を聞いて行う個別レクは全員を対象に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の今までの暮らしや生活様式をご家族様からお聞きし、今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時、ケース記録・申し送りノートの確認、朝礼・ュ礼での申し送りで、その日の様子や予定を職員全員が把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるスタッフミーティングで、意見交換や各職員が気になった事を随時話し合い、アセスメント作成、介護計画書に活かしている。	家族の要望を取り入れた介護計画を作成し、職員に周知している。今後はケアプランを記録台帳に添付してプランを意識しやすくしたいと考えている。モニタリングはケアカンファで行い記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の状態変化や少しでも気になった事は、業務日誌やケース記録を活用し、全職員が把握している。状態が大きく変化した場合は、介護計画書の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様ご家族様の状況に応じて、受診などの必要な支援は柔軟に対応している。外出する際は、その日の気分や天候によって変わるニーズへの対応も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で生活できるように介護相談員などから頂いた情報を基に、地域のイベントなどに参加させて頂く機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、利用者様やご家族様の希望により、他医療機関への受診もできるようになっている。	内科・外科・精神科は往診。眼科や皮膚科など外部受診には職員が付添っており、家族が同行することもある。処方が変わるときには家族の同意が必要なこともあり家族と連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やわずかな表情の変化を見逃さない様に早期発見に取り組んでいる。変化があった際には、訪問介護や主治医に連絡を行い、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを医療機関に提供し、こまめな面会も行っている。病院関係者との情報交換・相談、ご家族様と連携を取り合う事で、早期退院に向けて取り組んでいる。また、密に連絡を取る事で病院関係者ともいい関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心して納得した最後を迎えられるよう、本人様、ご家族様の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取っている。また、ご家族様の意向の変化にも柔軟に対応したり、が家族様の心のケアにも配慮している。	希望されている家族もいるが、現状では職員の不安も大きく、看取りまでは実際には行えていない。往診の医師は急変にも対応してくれる。	重度化した方へ疾患別の経過や対処方法など、より充実した研修を実施し、職員の不安や負担の軽減を図って利用者・家族の安心に繋げて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が2年に一度の救急救命講習を受けている。また、マニュアルを目につく所に置いたり、吸引ノズル・吸マスクなどの保管場所を統一するなどし、急変時・救急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難訓練を行っている。運営推進会議などで、地域への働きかけを行っている。災害時の備蓄も整えている。	年2回、内1回は消防署立会で避難訓練を行っており、夜間想定の訓練も実施して避難時間の記録を行っている。近所の方には、訓練を実施する旨の連絡をしている。防災ずきん・毛布の用意はないが、非常用持ち出し用品を準備している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念を持ち、敬意を払い、日頃の言葉遣い、感謝の気持ちを忘れないなど、ご本人の気持ちを大切にケアを行っている。個人情報などの書類も管理徹底を行っている。	命令口調や否定する声かけは止めようと指導している。実習生には『ちゃん付け』などニックネームを使用することについて、きちんと理由を説明している。写真、ホームページの掲載については家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の思いや希望を汲み取り、ご本人様が自分で決められるような環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その場その場での希望や体調などを考慮し、一人一人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を自分で決められる方は自分で決めて頂いているが、自己決定が難しい方は職員が一緒に考え、身だしなみを整えている。ご家族様のご協力を頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは健康を考えて作成している。利用者様にも時々メニュー作りに参加して頂いている。そして、利用者様と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。また、健康状態によっては摂取状況を記録に残している。	メニューは職員が交替で1週間分を作成している。祝い事の時などは特別メニューをつくる。食材は3～4日分をまとめて職員が買ってくる。ユニット毎に回転ずしなどの外食をしたり、出前をとることもある。誕生日には写真付きの色紙、プレゼント、ケーキでお祝いをする。食器拭きなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表を活用して、栄養摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診を行っており、指示を頂きながら利用者様に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の思いや希望を汲み取り、ご本人様が自分で決められるような環境作りを行っている。排泄パターンを周知しており、タイミングを見てトイレ誘導を行い、排泄を促している。	本人の訴えや態度で判断したり時間をみて誘導をしており、失禁しないように支援を行っている。夜間ポータブル使用の方には、音やセンサーにより居室で見守りを行っている。オムツ使用の方には、夜間でも2～3時間で必要に応じ交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄を記録し、確認しながらその都度対応している。食事に工夫をしたり、適度な運動も働きかけ、職員と共に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と話し合い、その時の心身の状態を考慮しつつ、タイミングを見て好きな時間に入浴して頂いている。	1日おきを基本とし、午前・午後利用者の希望に沿った入浴を支援。脱衣所は暖房をかけ、利用者の安全に配慮している。足拭きマットは清潔保持のため個別に交換している。ゆず湯や菖蒲湯など季節の湯を楽しむ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方などにも配慮を行いながら、メリハリのある生活を送って頂く事で、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が何の薬を処方されていて、どのような副作用があるか誰が見ても分かる様ファイルに綴じ、すぐ確認出来る様、努めている。また、追加薬の情報も申し送り等で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるかたには洗濯畳みや掃除、食器洗い等をお願いしている。役割りを持って頂く事で、皆の役に立っているというやりがいや喜びのある生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望や時間を見計らい、散歩などを行っている。個人レクや他館のレクへの参加、普段行けない所への外出は、計画を立てて実施している。ご家族様がいらっしゃる方はご家族様との外出もされている。	ドライブに出かけたり、お天気のよい時は散歩をするなど外気に触れるようにしている。月に1回は外食に出かけ、弁当持参で花見をしたり、初詣に出かけたりしている。家族と一緒に食事に出かける方もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に応じて買い物を行っている。規定で個人では現金を所持する事ができないため、ご自分で買い物に行ける方は、職員が同行し一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様とご家族様でのやり取りではなく、職員を通しての伝言となった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が利用しやすいように整備しています。歩行の妨げになる物はなくし、飾りも季節が分かるように飾り付けを行っています。	ホールと幅広の廊下が一体となり、広い空間となっている。テレビの前のソファなどで利用者はゆったりくつろいでいる。全体が見渡せるので、職員も見守りがしやすくなっている。利用者の作品や写真の掲示は、ユニット毎の違いが出ていると感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど家具を配置する事で利用者様同士のコミュニケーションが図れる場所作りを行い、一人一人の利用者様に自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思い出の品々をご自由にお持ち頂き、自由に配置する事で、居心地の良い居室作りができている。	ベッドはレンタルだが、利用者が使用していたタンスや物入れなどで個人らしいの居室となっている。仏壇やテレビなどをおいている方もいる。掃除は職員が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った身体状況の中で、家具や寝具を配置し、なるべくご本人様自身でできる事はやって頂けるよう工夫している。建物全体はバリアフリーになっている。		

（別紙4（2））

事業所名：グループホーム　いっしん館こまち

目標達成計画

作成日：平成28年3月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	地域密着な為、入居においては市内在住に限られている。同業者との繋がり・情報が必要不可欠な状況になっている。	市内（施設・病院・事業所等）を周って訪問する。定期的に行っている事業所の連絡会に参加し情報の共有をする。	繋がりを持つ事で、情報交換を今以上に行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。